

第 61 回秋季日本歯周病学会学術大会, 大阪, 2018 年 10 月 26 日, プログラムおよび講演抄録集: 136 頁, 2018.

- 36) 金子千尋, 小林哲夫, 杉田典子, 吉江弘正: 関節リウマチ患者におけるカルバミル化蛋白・好中球細胞外トラップの血清レベルと歯周炎重症度との関連. 日本歯科保存学会 2018 年度秋季学術大会 (第 149 回), 京都, 2018 年 11 月 2 日, プログラムおよび講演抄録集: 49 頁, 2018.
- 37) 横地麻衣, 高橋直紀, 松田由実, 山田美生, Benso Sulijaya, 多部田康一, 山崎和久: 新規機能性脂肪酸の歯肉上皮細胞における抗酸化ストレス作用の検討. 平成 30 年度新潟歯学会第 2 回例会, 新潟, 2018 年 11 月 10 日, プログラムおよび演題抄録集: 9 頁, 2018.
- 38) 鈴木 瞳, 中田 悠, 山崎和久: 弁置換患者への周術期口腔管理による口腔内変化及び術後感染への影響. 平成 30 年度新潟歯学会第 2 回例会, 新潟, 2018 年 11 月 10 日, プログラムおよび演題抄録集: 15 頁, 2018.
- 39) 干川絵美, 木森義隆, 佐藤大祐, 加藤寛子, 鈴木絢子, 羽賀健太, 難波大輔, 多部田康一, 泉 健次: 細胞品質管理に向けた画像解析による口腔ケラチノサイトの非侵襲的・定量的運動能評価の試み. 第 18 回日本再生医療学会総会, 神戸, 2019 年 3 月 22 日, プログラムおよび演題抄録集: 195 頁, 2019.

#### 【受賞】

- 1) 高橋直紀: 上皮バリア機能に注目した機能性脂肪酸 HYA の歯周炎抑制効果. オーラルサイエンス研究会 優秀発表賞, 第 2 回オーラルサイエンス研究会, 新潟, 2018 年 11 月 4 日.
- 2) Sato K, Yokoji M, Yamada M, Nakajima T, Yamazaki K: The effect of *Porphyromonas gingivalis* oral administration in germ-free mice. The JADR / GC Young Investigator Award, The 66th Annual Meeting of the JADR, Hokkaido, November 17, 2018.

#### 【その他】

- 1) 小林哲夫: 生物学的製剤使用の関節リウマチ患者における歯科の役割. 第 7 回 Swan Library, 函館, 2018 年 7 月 28 日.
- 2) 小林哲夫: リウマチと口腔ケア. 第 7 回西湘 RA スタッフミーティング, 小田原, 2018 年 10 月 13 日.
- 3) 多部田康一: Bruce Beutler lab で見た自然免疫研究史. 第 2 回オーラルサイエンス研究会, 新潟, 2018 年 11 月 3 日.
- 4) 高橋直紀, 山田美生, 多部田康一, 山崎和久: 上皮

バリア機能に注目した機能性脂肪酸 HYA の歯周炎抑制効果. 第 2 回オーラルサイエンス研究会, 新潟, 2018 年 11 月 3 日, 開催プログラム・抄録集: 11 頁, 2018.

- 5) 小林哲夫: 関節リウマチ発症の環境要因としての歯周炎. 平成 30 年度第 12 回神奈川歯科大学研究談話会, 横須賀, 2019 年 2 月 27 日.

### 歯科矯正学分野

#### 【著書】

- 1) 齋藤 功: 歯科矯正学 第 6 版. 19 章; 保定. I 保定とは (飯田順一郎 他編), 327-328 頁, 医歯薬出版, 東京, 2019.
- 2) 齋藤 功: 歯科矯正学 第 6 版. 19 章; 保定. II 保定装置 (飯田順一郎 他編), 328-331 頁, 医歯薬出版, 東京, 2019.
- 3) 齋藤 功: 歯科矯正学 第 6 版. 19 章; 保定. III 保定期間 (飯田順一郎 他編), 332 頁, 医歯薬出版, 東京, 2019.
- 4) 齋藤 功: 歯科矯正学 第 6 版. 20 章; 他科との協同による治療 (飯田順一郎 他編), 345-352 頁, 医歯薬出版, 東京, 2019.

#### 【論文】

- 1) Nagai T, Trakanant S, Kawasaki M, Kawasaki K, Yamada Y, Watanabe M, Blackburn J, Otsuka-Tanaka Y, Hishinuma M, Kitatmura A, Meguro F, Yamada A, Kodama Y, Maeda T, Zhou Q, Saijo Y, Yasue A, Sharpe PT, Hindges R, Takagi R, Ohazama A: The microRNAs control eyelid development through regulating Wnt signaling. *Dev Dyn*. 2019 Mar; 248(3):201-210, 2019.
- 2) Ishikawa R, Kawasaki M, Kawasaki K, Yamada A, Trakanant S, Meguro F, Kitamura A, Kudo T, Maeda T, Ohazama A: Sox Genes Show Spatiotemporal Expression during Murine Tongue and Eyelid Development. *Int J Dent*. 2018 Oct 9: 1601363, 2018.
- 3) Kitami K, Kitami M, Kaku M, Wang B, Komatsu Y: BRCA1 and BRCA2 tumor suppressors in neural crest cells are essential for craniofacial bone development. *PLOS Genet* 14(5): e1007340, 2018.
- 4) Kamimura R, Hossain MZ, Unno S, Ando H, Masuda Y, Takahashi K, Otake M, Saito I, Kitagawa J: Inhibition of the degrading of 2-arachidonoylglycerol (2-AG) attenuated orofacial neuropathic pain following an injury to

- the trigeminal nerve in mice. *J Oral Sci* 60(1): 37-44, 2018.
- 5) Okayasu M, Susammi T, Saito I, Kurata K, Nagahama K, Sakamoto T, Asahito T, Takato T, Ishiwata Y : Questionnaire investigation after orthodontic treatment in patients with unilateral cleft lip and palate: an inter-clinic collaborative study. *Orthodontic Waves* 77(2): 90-100, 2018.
  - 6) Mano M, Saito I, Suda N, Morishita T, Susami T, Sakamoto T, Asahito T, Iwata T, Ishiwata Y, Sato-Yamamoto Y.: A Collaborative Survey on Occlusion after Orthodontic Treatment in Patients with Unilateral Cleft Lip and Palate in Japan. *Orthodontic Waves* 77(2): 101-110, 2018.
  - 7) Asai Y, Haebe D, Saito I, Kobayashi T: Changes of nasal and oronasopharyngeal airway morphologies and nasal respiratory function following orthognathic surgery. *J Oral Maxillofac Surg Med Path* 30(4): 313-318, 2018.
  - 8) 池田順行, 小野和宏, 阿部裕子, 丹原 惇, 齋藤 功, 高木律男: 顎矯正手術を行ったビスフォスフォネートを内服する顎変形症の1例. *新潟歯学会誌* 48(2) : 91-96 頁, 2018.
  - 9) 本多綾子, 高橋功次郎, 丹原 惇, 高木律男, 小林正治, 齋藤 功: クラスター分析による骨格性下顎前突症例における正貌パターンの分類. *新潟歯学会誌* 48(2) : 75-83 頁, 2018.
  - 10) 坂上 馨, 栗原加奈子, 深町直哉, 阿部 遼, 堀一浩, 小野高裕, 齋藤 功: 骨格性下顎前突症患者の顎矯正手術後における嚥下時舌圧発現様相の解析. *日顎変形誌* 29(1) : 2019. (印刷中)
  - 11) 長谷部大地, 齋藤 功, 小林正治: 日本人における Index of Orthognathic Functional Treatment Need (IOFTN)の有用性についての検討 -第1報-. *日顎変形誌* 29(1) : 2019. (印刷中)
  - 12) 井表千馨, 福井忠雄, 小栗由充, 小田陽平, 池田順行, 児玉泰光, 小林正治, 齋藤 功: 新潟大学歯学総合病院矯正歯科における最近14年間の歯科矯正用インプラントアンカー(仮称)の使用状況調査. *甲北信越矯歯誌* 27(1) : 2019. (印刷中)
  - 2) 竹山雅規, 齋藤 功, 丹原 惇, 高橋功次郎: 矯正一呼吸器内科連携による閉塞性睡眠時無呼吸発症・重症化リスク予測システムの開発. 平成30年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C), 17K12042, 2018.
  - 3) 福井忠雄, 齋藤 功, 堀一浩: 舌圧と顎顔面筋活動を指標とした開咬症の機能的診断法の確立. 平成30年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C), 17K11952, 2017.
  - 4) 上村 藍太郎: 内因性カンナビノイド(2-AG)が関わる鎮痛作用の解明. 日本学術振興会科学研究費補助金 研究活動スタート支援, 17H06693, 2018.
  - 5) 北見公平: 歯根膜の部位特異的な組織応答を制御する新たなメカノトランスダクション機構の解明. 日本学術振興会科学研究費補助金 研究活動スタート支援, 17H06698, 2018.
  - 6) 高橋功次郎: 口唇閉鎖機能の定量化による新治療目標への臨床応用. 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 若手研究(B), 17K17319, 2017.
  - 7) 大倉麻里子: TRPV1に着目した矯正歯科治療時の疼痛メカニズムと歯槽骨吸収の解明. 平成30年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 若手研究, 18K17251, 2018.
  - 8) 坂上 馨: 顎変形症に対する Visual feedback を応用した新規筋機能療法の開発. 平成30年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 若手研究, 18K17220, 2018.
  - 9) 大森裕子: 安全な歯科治療のためのレオロジー-超音波で硬化を操る印象方法の開発-. 平成30年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 若手研究, 18k17279, 2018.

#### 【招待講演・シンポジウム】

- 1) Trakanant S: Mesenchymal microRNAs Regulate the Development of the First Branchial Arch. 2019 International Niigata-Taiwan Universities Collaborative Dental Research Symposium, Taipei, March 9-10, 2019.
  - 2) Saito I, Nihara J, Kodama Y, Takagi R, Iida A: Current Status of CLP Management at Niigata University and Introduction of Inter-center Collaborative Studies in
- 1) 齋藤 功, 丹原 惇, 高橋功次郎: ジェネレーティブデザインを応用した顎偏位形態予測と顎偏位軽減治療システムの確立. 平成30年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究(C), 17K11935, 2018.

Japan. Special Lecture at the 23rd Congress of Korean Cleft Lip and Palate, Seoul, February 16, 2019.

- 3) 齋藤 功：エッジワイズ法の基本を知り，未来を語ろうー管理指導医の立場から．臨床セミナー2「エッジワイズ法の未来ー変革期を迎えてー」，第77回日本矯正歯科学会学術大会，横浜，2018年10月30日-11月1日，抄録集：137頁，2018.
- 4) 齋藤 功，榎宏太郎（コーディネーター）：Special International Session “World Trends in Orthodontics”．第77回日本矯正歯科学会学術大会，横浜，2018年10月30日-11月1日，抄録集：87-103頁，2018.
- 5) 齋藤 功：「矯正歯科治療の特徴と効果ー実際の治療例を交えてー」．第77回日本矯正歯科学会学術大会 市民公開講座，横浜，2018年10月28日，抄録集：186頁，2018.
- 6) 坂上 馨：「外科的矯正治療における顎口腔機能の適応変化」．シンポジウム．第33回甲北信越矯正歯科学会大会，新潟，2018年7月1日，同学会学術大会プログラム・抄録集：22-23頁，2018.
- 7) 齋藤 功：「外科的矯正治療における形態と機能を考察するー治療例と臨床研究をもとにー」．シンポジウム4「技術と知識の伝承（次世代を担う若手矯正界のためのセミナー）」．第28回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会，大阪，2018年6月14日-15日，日顎変形誌28（2）：108-109頁，2018.
- 8) 高橋功次朗，丹原 惇，森田修一，小林正治，池田順行，林 孝文，齋藤 功：骨格性下顎前突症例における下顎単独後退術の下顎後退量の左右差と正中部移動量との関係 第28回特定非営利法人日本顎変形症学会総会・学術大会，平成29年度学会賞受賞講演，大阪，2018年6月15日，日顎変形誌28（2）：18頁，2018.
- 9) 齋藤 功，楠本健司：認定師受講に係わる教育セミナーコーディネーター．第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会，大阪，2018年5月24日-25日，2018.
- 10) 佐藤嘉晃，飯田順一郎，齋藤 功：口唇口蓋裂症例における歯科矯正治療の要点．教育セミナー．第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会，大阪，2018年5月24日-25日，日口蓋誌43（2）：107頁，2018.
- 11) 丹原 惇：Hotz 床併用二段階口蓋形成法と外科的矯正治療-片側性唇顎口蓋裂症例における治療成績の検討-．シンポジウム1「口蓋裂例における矯正治療と外科的矯正術の連携と工夫」．第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会，大阪，2018年5月24日-25日，日口蓋誌43（2）：60頁，2018.

#### 【学会発表】

- 1) Kurihara K, Fukui T, Sakaue K, Saito I: Tongue pressure production during swallowing in anterior open bite cases. TAO (Taiwan Association of Orthodontics) 31st Annual Meeting & 7th Resident Meeting, Taipei, Taiwan, December 6-9, 2018.
- 2) Kodama Y, Nihara J, Iida A, Ono K, Saito I, Takagi R: Occlusal Relations With Huddart/Bodenham Index In UCLP Following Two-Stage Palatoplasty At Niigata University. 24th Congress of the European Association for Cranio Maxillo Facial Surgery, Munich, Germany, September 18-21, 2018.
- 3) Kurihara K, Fukui T, Sakaue K, Hori K, Saito I: Influence of tongue thrusting on tongue pressure production during swallowing in patients with anterior open bite. 94th European Orthodontic Society Congress, Edinburgh, Scotland, June 17-21, 2018.
- 4) Amitani K, Takeyama M, Ohshima Y, Kobayashi T, Saito I: The correlation between severity in obstructive sleep apnea and lateral cephalometric analysis for Japanese male and female. 94th European Orthodontic Society Congress, Edinburgh, Scotland, June 17-21, 2018.
- 5) Fukui T, Abe R, Sakaue K, Hayashi T and Saito I: Ultrasonographic evaluation of lingual function during deglutition in patients with mandibular prognathism before and after orthognathic surgery. 94th European Orthodontic Society Congress, Edinburgh, Scotland, June 17-21, 2018.
- 6) 長谷部大地，竹山雅規，片桐 渉，齋藤 功，小林正治：外科的矯正治療の適応基準と矯正治療単独とのボーダー症例の検討．形成外科学会新潟地方会，新潟，2019年2月8日．
- 7) 丹原 惇，小野和宏，松下佳代，齋藤有吾，秋葉陽介，西山秀昌：論証モデルを用いたアカデミックライティングの授業デザインの有効性-初年次と2年次のレポート評価結果にもとづいて-．大学教育学会2018年度課題研究集会，長崎市，2018年12月1日，要旨集，65頁，2018.
- 8) 栗原加奈子，福井忠雄，坂上 馨，堀 一浩，小野高裕，齋藤 功：成人前歯部開咬症の舌突出が嚥下時舌圧発現様相に与える影響．平成30年度第2回新潟歯学会例会，新潟，2018年11月10日，新潟歯学会雑誌48（2）：121頁，2018.
- 9) 網谷季莉子，竹山雅規，丹原 惇，高橋功次朗，大島康義，小林正治，齋藤 功：男女別，年代別にみた閉塞性睡眠時無呼吸症の重症度と顎顔面形

- 態, BMI との関連. 平成 30 年度第 2 回新潟歯学会例会, 新潟, 2018 年 11 月 10 日, 新潟歯学会雑誌 48(2): 121 頁, 2018.
- 10) 齋藤大輔, 小田陽平, 加藤祐介, 佐久間英伸, 長谷部大地, 新美奏恵, 片桐 渉, 齋藤 功, 小林正治: 顎矯正手術に伴う骨代謝マーカーの変動. 第 63 回(公社)日本口腔外科学会総会・学術大会, 千葉, 2018 年 11 月 2 日-4 日, 日本口腔外科学会雑誌 64(総会特別号): 329 頁, 2018.
  - 11) 阿部 遼, 福井忠雄, 坂上 馨, 栗原加奈子, 深町直哉, 長崎 司, 小林太一, 林 孝文, 齋藤 功: 超音波診断装置を用いた骨格性下顎前突症患者的嚙下時舌運動様相の検討. 第 77 回日本矯正歯科学会学術大会, 横浜, 2018 年 10 月 30 日-11 月 1 日, 同学術大会プログラム・抄録集: 202 頁, 2018.
  - 12) 新島綾子, 高橋功次朗, 丹原 惇, 高木律男, 小林正治, 齋藤 功: クラスター分析を利用した骨格性下顎前突症における正貌パターンの性差. 第 77 回日本矯正歯科学会学術大会, 横浜, 2018 年 10 月 30 日-11 月 1 日, 同学術大会プログラム・抄録集: 211 頁, 2018.
  - 13) 上村藍太郎, ザキル ホサイン, 高橋功次朗, 北川純一, 齋藤 功: 口腔顔面領域の神経障害性疼痛に対する内因性カンナビノイド分解酵素阻害剤の鎮痛効果. 第 77 回日本矯正歯科学会学術大会, 横浜, 2018 年 10 月 30 日-11 月 1 日, 同学術大会プログラム・抄録集: 224 頁, 2018.
  - 14) 深町直哉, 坂上 馨, 栗原加奈子, 長崎 司, 阿部 遼, 丹原 惇, 小野高裕, 齋藤 功: 咀嚼能力評価における咀嚼能力自動解析装置の有用性. 第 77 回日本矯正歯科学会学術大会, 横浜, 2018 年 10 月 30 日-11 月 1 日, 同学術大会プログラム・抄録集: 225 頁, 2018.
  - 15) 水越 優, 加来 賢, 北見公平, 井田貴子, 魚島勝美, 齋藤 功: 矯正的歯の移動時のマウス歯根膜における増殖/静止期細胞の局在. 第 77 回日本矯正歯科学会学術大会, 横浜, 2018 年 10 月 30 日-11 月 1 日, 同学術大会プログラム・抄録集: 231 頁, 2018.
  - 16) 大倉麻里子, 大倉直人, 丹原 惇, 中田樹里, 藤田 瑛, 野杵由一郎, 齋藤 功: ODS ラットを用いた矯正的歯の移動におけるアスコルビン酸の影響. 第 77 回日本矯正歯科学会学術大会, 横浜, 2018 年 10 月 30 日-11 月 1 日, 同学術大会プログラム・抄録集: 232 頁, 2018.
  - 17) 中田樹里, 柿原嘉人, 丹原 惇, 大倉麻里子, 佐伯万騎男, 齋藤 功: ROCK 阻害剤の実験的歯の移動への効果. 第 77 回日本矯正歯科学会学術大会, 横浜, 2018 年 10 月 30 日-11 月 1 日, 同学術大会プログラム・抄録集: 238 頁, 2018.
  - 18) 坂上 馨, 栗原加奈子, 深町直哉, 長崎 司, 阿部 遼, 堀 一浩, 小野高裕, 齋藤 功: 骨格性下顎前突症患者的顎矯正手術後における嚙下時舌圧発現様相の分析. 第 77 回日本矯正歯科学会学術大会, 横浜, 2018 年 10 月 30 日-11 月 1 日, 同学術大会プログラム・抄録集: 296 頁, 2018.
  - 19) 北見公平, 竹山雅規, 小栗由充, 丹原 惇, 小林正治, 齋藤 功: Hotz 床併用二段階口蓋形成手術法で治療を行った片側性唇顎口蓋裂症例. 第 33 回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2018 年 7 月 1 日, 同学会学術大会プログラム・抄録集: 41 頁, 2018.
  - 20) 佐藤知弥子, 齋藤 功: 下顎骨の軽度左方偏位および叢生を伴う Angle Class I 上下顎前突症例. 第 33 回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2018 年 7 月 1 日, 同学会学術大会プログラム・抄録集: 47 頁, 2018.
  - 21) 上村藍太郎, 福井忠雄, 齋藤 功: 下顎骨軽度左方偏位を伴う Angle Class I 叢生症例. 第 33 回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2018 年 7 月 1 日, 同学会学術大会プログラム・抄録集: 48 頁, 2018.
  - 22) 大森裕子, 竹山雅規, 齋藤 功: 開咬を伴う Angle Class II subdivision 上顎前突症例. 第 33 回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2018 年 7 月 1 日, 同学会学術大会プログラム・抄録集: 51 頁, 2018.
  - 23) 丹原 惇, 齋藤 功: 開咬および叢生を伴う Angle Class II 上下顎前突. 第 33 回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2018 年 7 月 1 日, 同学会学術大会プログラム・抄録集: 52 頁, 2018.
  - 24) 眞館幸平, 齋藤 功: 片側第二大臼歯缺状咬合を伴う Angle Class III 叢生症例. 第 33 回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2018 年 7 月 1 日, 同学会学術大会プログラム・抄録集: 55 頁, 2018.
  - 25) 大竹正紀, 齋藤 功: 開咬および叢生を伴う Angle Class III ハイアングル上下顎前突症例. 第 33 回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2018 年 7 月 1 日, 同学会学術大会プログラム・抄録集: 57 頁, 2018.
  - 26) 大倉麻里子, 福井忠雄, 齋藤 功: 片側交叉咬合を伴う Angle Class III 開咬症例. 第 33 回甲北信越矯正歯科学会大会, 新潟, 2018 年 7 月 1 日, 同学会学術大会プログラム・抄録集: 58 頁, 2018.
  - 27) 市川佳弥, 丹原 惇, 朝日藤寿一, 宮田昌幸, 親松 宏, 新美奏恵, 児玉泰光, 高木律男, 小林正治, 齋藤 功: 術前顎矯正治療を行った片側性唇顎口蓋裂患者の外鼻形態の変化. 平成 30 年度第 1

回新潟歯学会例会, 新潟, 2018年6月30日, 新潟歯学会雑誌 48(2): 111頁, 2018.

- 28) 藤田 瑛, 丹原 惇, 池真樹子, 齋藤 功: 有限要素解析を用いた顎偏位を伴う骨格性下顎前突症の顎骨内応力解析. 平成30年度第1回新潟歯学会例会, 新潟, 2018年6月30日, 新潟歯学会雑誌 48(2): 111-112頁, 2018.
- 29) 藤田 瑛, 丹原 惇, 池真樹子, 齋藤 功: 有限要素解析を用いた顎偏位を伴う骨格性下顎前突症の顎骨内応力解析. 第28回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会, 大阪, 2018年6月14日-15日, 日顎変形誌 28(2): 174頁, 2018.
- 30) 長谷部大地, 加藤祐介, 齋藤大輔, 高橋功次郎, 丹原 惇, 新美奏恵, 片桐 渉, 齋藤 功, 小林正治: 日本人における Index of Orthognathic Functional Treatment Need (IOFTN) の有用性について. 第28回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会, 大阪, 2018年6月14日-15日, 日顎変形誌 28(2): 123頁, 2018.
- 31) 池田順行, 小玉直樹, 西野和臣, 齋藤 功, 西山秀昌, 高木律男: 術後2か月で手術部位感染が顕在化した顎変形症の1例. 第28回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会, 大阪, 2018年6月14日-15日, 日顎変形誌 28(2): 136頁, 2018.
- 32) 加藤祐介, 佐久間英伸, 原 太一, 福井忠雄, 齋藤 功, 小林正治: 顔面軟組織の萎縮を伴う顔面非対称の1例. 第28回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会, 大阪, 2018年6月14日-15日, 日顎変形誌 28(2): 178頁, 2018.
- 33) 市川佳弥, 丹原 惇, 朝日藤寿一, 宮田昌幸, 親松 宏, 新美奏恵, 小林正治, 児玉泰光, 高木律男, 齋藤 功: 術前顎矯正治療を行った片側性唇顎口蓋裂患者の外鼻形態の変化. 第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 大阪, 2018年5月24日-25日, 日口蓋誌 43(2): 152頁, 2018.
- 34) 児玉泰光, 大湊 麗, 永井孝宏, 渡部桃子, 山田茜, 結城龍太郎, Andrea Rei Salazar, 市川佳弥, 丹原 惇, 齋藤 功, 小野和宏, 高木律男: 舌縮小術を行った口蓋裂を伴う Beckwith-Wiedemann 症候群の1例. 第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会, 大阪, 2018年5月24日-25日, 日口蓋誌 43(2): 141頁, 2018.

#### 【受賞】

- 1) 坂上 馨, 栗原加奈子, 深町直哉, 長崎 司, 阿部 遼, 堀 一浩, 小野高裕, 齋藤 功: 骨格性下顎前突症患者の顎矯正手術後における嚙下時舌圧発現様

相の分析. 第77回日本矯正歯科学会学術大会優秀発表賞, 2018年11月1日.

- 2) 阿部 遼, 福井忠雄, 坂上 馨, 栗原加奈子, 深町直哉, 長崎 司, 小林太一, 林 孝文, 齋藤 功: 超音波診断装置を用いた骨格性下顎前突症患者の嚙下時舌運動様相の検討. 第77回日本矯正歯科学会学術大会優秀発表賞, 2018年11月1日.
- 3) 丹原 惇, 大森 裕子, 三俣 哲, 川合 巳佳, 高橋功次郎, 齋藤 功: 安全な歯科治療のためのレオロジー: 超音波で硬化を操る印象法の開発. 日本歯科医学会「第34回歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い」優秀発表賞, 2018年8月29日.
- 4) 高橋功次郎, 丹原 惇, 森田修一, 小林正治, 池田順行, 林 孝文, 齋藤 功: 骨格性下顎前突症例における下顎単独後退術の下顎後退量の左右差と正中部移動量との関係. 第28回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会学術賞, 2018年6月15日.
- 5) 藤田 瑛, 丹原 惇, 池真樹子, 齋藤 功: 有限要素解析を用いた顎偏位を伴う骨格性下顎前突症の顎骨内応力解析. 第28回特定非営利活動法人日本顎変形症学会総会・学術大会優秀ポスター賞, 2018年6月15日.
- 6) 市川佳弥, 丹原 惇, 朝日藤寿一, 宮田昌幸, 親松 宏, 新美奏恵, 小林正治, 児玉泰光, 高木律男, 齋藤 功: 術前顎矯正治療を行った片側性唇顎口蓋裂患者の外鼻形態の変化. 第42回日本口蓋裂学会総会・学術集会優秀ポスター賞, 2018年5月25日.

#### 【研究会発表】

- 1) 竹山雅規: 成長期の上突咬合・叢生症例. 第40回与五沢矯正研究会, ハワイ, 2018年4月17日.
- 2) 大森裕子, 丹原 惇, 三俣 哲, 川合巳佳, 高橋功次郎, 齋藤 功: 安全な歯科治療のためのレオロジー-超音波で硬化を操る印象法の開発-. 第10回サ克蘭研究会年次学術集会, 佐渡市, 2018年10月12日-15日, 抄録集: 7頁.

#### 【その他】

- 1) 齋藤 功: 新潟大学矯正歯科が考える矯正歯科治療の目的と実践-臨床研究を交え-. 神奈川歯科大学研究談話会, 2018年12月3日, 神奈川歯科大学, 横須賀市.
- 2) 齋藤 功: 新潟大学で実践する口唇裂・口蓋裂治療の変遷と現況-多施設共同研究の成果を交え-. 愛知学院大学第25回 JASIDS 特別講演会, 2018年11月15日, ホテルメルパルク名古屋, 名古屋市.

- 3) 齋藤 功：「顎変形症に対する矯正臨床と研究」．東京医科歯科大学大学院特別講義（90分；17:00-18:30），歯科棟第2講義室，2018年9月12日，東京．
- 4) 河村智子：顔面非対称を伴う骨格性下顎前突症例における側頭骨部と下顎骨形態についての三次元分析．学位研究紹介，新潟歯学会誌 48(2)：35-36頁，2018．

## 摂食嚥下リハビリテーション学分野

### 【著書】

- 1) 井上 誠：嚥下，基礎歯科生理学，医歯薬出版株式会社，印刷中．
- 2) 井上 誠：口腔機能の訓練，外来における嚥下のみかた，Journal of Otolaryngology, Head and Neck Surgery，印刷中，東京医学社，2019年3月号．
- 3) 井上 誠：嚥下機能，顎口腔機能の評価法・研究法-2017-，八木印刷，印刷中．
- 4) 井上 誠：基礎編 嚥下の生理学，歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学第2版（井上 誠，弘中祥司監修），医歯薬出版株式会社，印刷中．
- 5) 井上 誠：基礎編 嘔吐の生理学，歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学第2版（井上 誠，弘中祥司監修），医歯薬出版株式会社，印刷中．
- 6) 井上 誠：臨床編 その他の検査，歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学第2版（井上 誠，弘中祥司監修），医歯薬出版株式会社，印刷中．
- 7) 辻村恭憲，井上 誠：基礎編 2章1)咳嗽，歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学第2版（井上 誠，弘中祥司監修），医歯薬出版株式会社，印刷中．
- 8) 伊藤加代子，井上 誠：臨床編 1 4章5)唾液，味覚，歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学第2版（井上 誠，弘中祥司監修），医歯薬出版株式会社，印刷中．
- 9) 辻村恭憲，井上 誠：臨床編 2 3章7)嚥下造影，歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学第2版（井上 誠，弘中祥司監修），医歯薬出版株式会社，印刷中．
- 10) 伊藤加代子，井上 誠：臨床編 2 7章2)外来患者の口腔ケア，歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学第2版（井上 誠，弘中祥司監修），医歯薬出版株式会社，印刷中．
- 11) 辻村恭憲，井上 誠：臨床編 3 2章病院での対応，歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学第2版（井上 誠，弘中祥司監修），医歯薬出版株式会社，

印刷中．

- 12) 真柄 仁，下畑享良：臨床編 4 2章 疾患別症例 ② 神経変性疾患における嚥下障害，歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学第2版（井上 誠，弘中祥司監修），医歯薬出版株式会社，印刷中．
- 13) 真柄 仁，堀 一浩：臨床編 4 2章 疾患別症例 ③ 頭頸部腫瘍術後における嚥下障害，歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学第2版（井上 誠，弘中祥司監修），医歯薬出版株式会社，印刷中．
- 14) 井上 誠：4章摂食嚥下機能のメカニズム，歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション，医歯薬出版株式会社（井上 誠他），印刷中．
- 15) 井上 誠：舌圧検査，Clinical Rehabilitation 臨時増刊（小口和代編），医歯薬出版株式会社，652-659，2018.6．

### 【論文】

- 1) Ayodele Sasegbon, Masahiro Watanabe, Andre Simons, Emilia Michou, Dipesh H Vasant, Jin Magara, Philip Bath, John C Rothwell, Makoto Inoue, and Shaheen Hamdy: Cerebellar rTMS restores pharyngeal brain activity and swallowing behavior after disruption by a cortical virtual lesion. J Physiol, in press, 2019.
- 2) Naru Shiraishi, Risa Ishiko-Uzuka, Kenta Takahashi, Toru Ogawa, Takahisa Anada, Osamu Suzuki, Takashi Goto, Keiichi Sasaki: Effect of Functionally-Graded Calcium Titanate Film, Prepared by Metal-Organic Chemical Vapor Deposition, on Titanium Implant. Appl Sci 2019, 9(1), 172; <https://doi.org/10.3390/app9010172>.
- 3) Taichi Tenkumo, Takeshi Fuji, Motohide Ikawa, Shigeru Shoji, Hiromi Sasazaki, Yoko Iwamatsu-Kobayashi, Yayoi Okuyama, Hiroyuki Matsui, Naru Shiraishi, Toshi Furuuchi, Keisuke Higuchi, Wataru Hashimoto, Yasuhisa Takeuchi, Hidetoshi Simauchi, Keiichi Sasaki: Introduction of Integrated Dental Training Jaw Models and Rubric Criteria. Eur J Dent Educ, 2019 Feb;23(1):e17-e31. doi: 10.1111/eje.12395.
- 4) Mayumi Sakamoto, Yutaka Watanabe, Ayako Eda, Keiko Motokawa, Maki Shirobe, Hirohiko Hirano, Kayoko Ito, Yayoi Kanehisa, Ritsuko Yamada, Akihiko Yoshihara: Self-feeding ability as a predictor of mortality Japanese nursinghome residents: a two-year longitudinal study, The journal of nutrition, health & aging, 2018, doi: 10.1007/s12603-018-1125-2.
- 5) Jin Magara, Masahiro Watanabe, Takanori Tsujimura, Shaheen Hamdy, Makoto Inoue: Cold thermal oral stimulation produces immediate excitability in human pharyngeal motor cortex. Neurogastroenterol Motil,